

図書館のリソースを活用する

エメラルドの文献で初めて英語論文に触れる機会を授業で提供

東洋大学経営学部 教授 塚田朋子先生



英語論文を授業で取り上げるきっかけとその方法は？

(塚田朋子先生) 原書を使った自身の学習経験から、レポート作成時に英語論文を読ませることを学生に課すことに躊躇はなかったです。英語圏は

もちろんのこと、多くのアジアの人も英語を読んでいるのが当たり前の中、東洋大学がスーパーグローバル大学に採択されたこと、学部の若手の先生が書かれた論文が

「European Journal of Marketing」(発行元: Emerald Publishing 社)に掲載されたことなどが追い風となりました。

「Journal of Fashion Marketing and Management」との出会い、「ファッション・マーケティング」という科目を創り、ファッション・マーケティングの本を執筆した頃と重なります。授業をリベラルアートと捉えることで非常に自由になり、同誌を使おうと決めて、授業が楽しくなりました。院生に関しては先行研究を見つけるのにこれ以上のものはない。経営とかマーケティングといえやはり英語。ただ学生にはわかる範囲でということが許されます。学生はプロではないので自分なりにわかって、それで教師に質問してくれればいい。ただ、読みやすいジャーナルや論文を見つけてあげるのは教師側だと思います。

銀座に今年オープンした商業施設「銀座シックス」に関連して、同誌最新号の Luxury Fashion 特集を使いました。インターネットで Luxury Brand が何をやっているかを取り上げ

学部生による高い利用統計結果

東洋大学は日本で初めてマーケティング学科が創設された大学です。経営学部の授業でファッションマーケティングを教える塚田朋子先生は、英文雑誌「Journal of Fashion Marketing and Management」(発行元: Emerald Publishing 社)掲載の論文を読むこと、論文の内容に基づいてレポートを書くことを学部生の課題としています。オンライン利用統計を見ても、例年6月と11月は高い利用があり、実際学生が課題として論文を閲覧していることがわかります。学部生で論文を読み始めるきっかけとなる画期的な事例について、塚田先生と、塚田ゼミの皆さんにお聞きしました。

た論文2本、もうひとつはわざとほぼ関係のない論文の計3本を挙げておいて、ゴールデンウィーク頃に課題を出しました。その直後から受講生の質問が届きます。間違いなく読もうとしているが、これまで見たことがないので、論文は最初のページだけと思っている人がいます。ずっと下がって読んでいく、それだけを伝えることも。取り組みに対する内部の反響は大きく、(裏面につづく)



別のゼミで興味を持った学生二人が論文を読んでくれ、同時多発的に関連の質問が他からも届きました。

初期の頃の授業アンケートでは、多くの学生にひどく書かれました。2017 年春学期は「英語を使う必要がない」「日本語で論文がないのならともかく」といったコメントが 2 名あった一方、非常に良かったと言ってくれる学生が 60 人（17%）くらい。2017 年春学期の学期末試験受験者 293 名中、「自信があるわけではないので心配だった」、「意外と読める」といった何か一言でも書いてくれた人は 54 名（18%）。その中で英語の論文をさらに読みたいという「はい」と「いいえ」の択一では、受験者の約 1 割以上がやはり自分も読んでみたいという人がいることがわかりました。それで例えば試験をしたら全然出来ていないわけではなく、そこから様々なことを考えて議論するのが専門科目の話だと思えます。（談）

学生の皆さんの感想

（塚田ゼミ生）

- レポート作成の課題として英語論文を読むように勧められた時は、心配、不安があった。
- 実際に英語論文を読んでみたら、難しくて訳せないところもあったが読んでいて楽しかった。
- 意外と読める。
- 全部は理解できなかったが理解できた所はなるほどと思った。
- 課題となる文献を図書館のデータベースで探すのに苦労した。
- 論文の構成がわからなくて、始めの要約部分だけ読めばよいと誤解した。
- 英語に自信がないので、最初からグーグル翻訳に頼った。
- 最初は戸惑いながらも、単語とか文法とか自分が知っていることもあり、ゆっくり読み進めた。
- 専門用語については調べつつ、プリントアウトは英語とグーグル翻訳した日本語を用意し、両方を見進めながら読んだ。

大学図書館の電子リソースを、教員・研究者だけでなく学部生にまで使わせる機会を上手に提供した好例をご紹介しました。英語論文を検索してサマリーから本文までを読み続け、最終的に自分なりに理解してレポートするプロセスは、経験した学生にとって将来必ず活かされることと思います。（エメラルド取材感想）

お問い合わせ先

エメラルド・ジャパン：電話・ファックス (045) 367-2114
E メール emerald@ac.auone-net.jp

英国本社
Emerald Publishing Limited, Howard House,
Wagon Lane, Bingley, United Kingdom BD16 1WA

ソーシャルメディアのご案内

 @emeraldglobal  /emeraldpublishing

 /company/34137  /EmeraldPublishing67

販売代理店